

2013年11月13日 全5頁

Indicators Update

9月機械受注

非製造業が全体を押し下げても、製造業は堅調な推移

経済調査部
エコノミスト 久後 翔太郎

[要約]

- 2013年9月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比▲2.1%と2ヶ月ぶりに減少し、市場コンセンサス（同▲1.8%）を下回った。ただし、3ヶ月移動平均値で見ると、3ヶ月連続の増加となっており、機械受注は改善の動きが続いている。
- 需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+4.1%と5ヶ月連続の増加となった。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比▲7.0%と3ヶ月ぶりの減少となった。「金融業・保険業」が前月比▲27.8%、「農林漁業」が同▲26.2%、「建設業」が同▲26.7%と、それぞれ減少に転じたことが全体を押し下げた。
- 外需は前月比+12.1%と3ヶ月連続の増加となった。貿易統計の一般機械輸出の動向を見ると、EU向けや中国向けで改善が続いていることなどから、今後も外需の増加が続く見込みである。
- 内閣府公表の10-12月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比▲2.1%と3四半期ぶりの減少を見込んでいる。業種別に見ると、製造業の見通しは同+0.6%と3四半期連続の増加であるものの、非製造業の見通しが同▲3.5%となっており、非製造業の減少が全体を押し下げる見通しである。ただし、民需（船舶・電力を除く）の見通しは10月から12月までそれぞれ前月比▲1.2%となった場合でも達成可能だ。また、10月から12月までそれぞれ前月比▲0.1%で推移した場合でも、10-12月期は前期比で増加となり、達成のハードルは高くないだろう。このため、大和総研では、10-12月期の機械受注は3四半期連続の増加になるとみている。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年		2013年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
民需（船電を除く）	▲0.8	3.8	▲1.3	▲7.5	4.2	14.2	▲8.8	10.5	▲2.7	▲0.0	5.4	▲2.1
コンセンサス												▲1.8
DIR予想												▲3.2
製造業	▲2.7	1.8	1.0	▲10.0	4.9	13.3	▲7.3	3.8	2.4	4.8	0.8	4.1
非製造業（船電を除く）	2.7	6.4	▲7.8	▲4.5	0.3	14.3	▲6.0	25.4	▲17.5	0.0	6.2	▲7.0
外需	0.5	11.8	▲8.3	▲3.7	1.0	52.1	▲19.9	10.3	▲16.7	1.4	22.4	12.1

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

9月の機械受注は2ヶ月ぶりの減少

2013年9月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比▲2.1%と2ヶ月ぶりに減少し、市場コンセンサス（同▲1.8%）を下回った。ただし、3ヶ月移動平均値で見ると、3ヶ月連続の増加となっており、機械受注は改善の動きが続いている。この結果、2013年7-9月期は前期比+4.3%と内閣府による見通し（同▲5.3%）を上回り、2四半期連続の増加となった。

非製造業が全体を押し下げても、製造業は堅調な推移

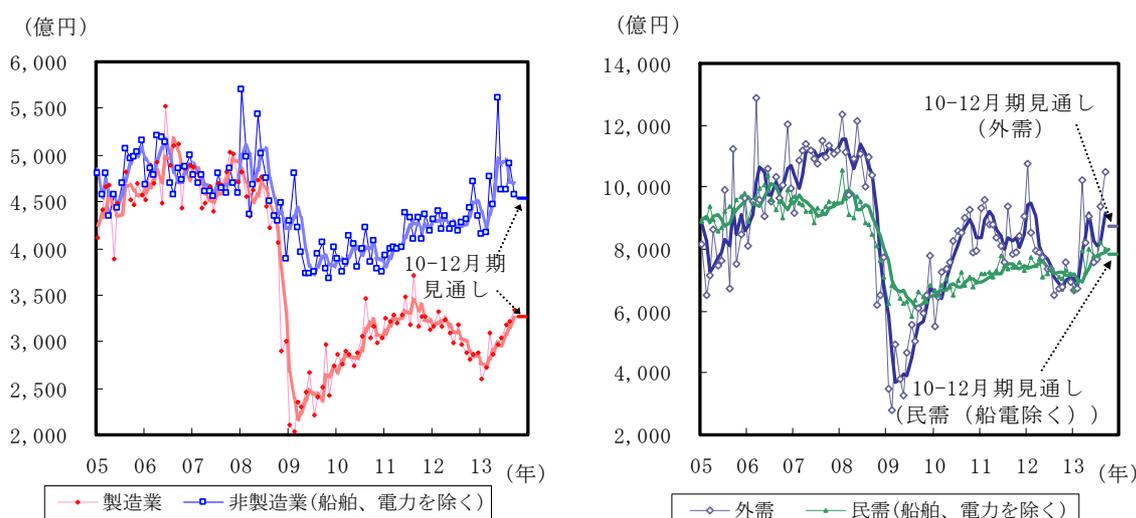
需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+4.1%と5ヶ月連続の増加となった。

素材系の業種を見ると、「パルプ・紙・紙加工品」が前月比+150.3%と大幅に増加した。ただし、大型受注などの特殊要因の可能性があり、やや割り引いてみる必要があるだろう。「化学工業」は、前月比+15.2%と2ヶ月連続の増加となった。一方、大型案件の受注により前月大幅に増加した「石油製品・石炭製品」は、前月比▲49.5%と大幅に減少した。加工系の業種を見ると、「一般機械」が前月比+11.6%、「情報通信機械」が前月比+33.7%と増加した一方で、「電気機械」は前月比▲4.7%と2ヶ月連続の減少となっており、ネガティブな内容。

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比▲7.0%と3ヶ月ぶりの減少となった。

「金融業・保険業」が前月比▲27.8%、「農林漁業」が同▲26.2%、「建設業」が同▲26.7%と、それぞれ減少に転じたことが全体を押し下げた。

図表2：需要者別機械受注

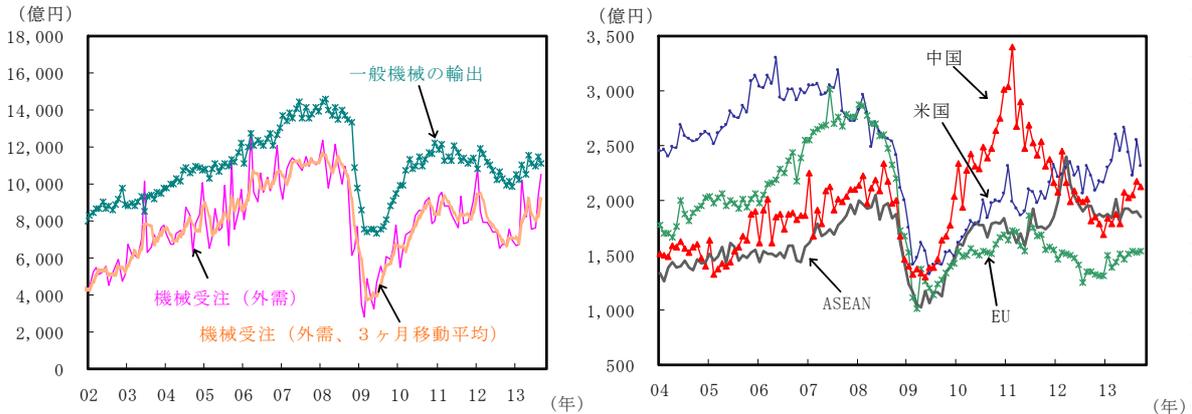


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

外需は3ヶ月連続の増加

外需は前月比+12.1%と3ヶ月連続の増加となった。貿易統計の一般機械輸出の動向を見ると、EU向けや中国向けで改善が続いていることなどから、外需の増加が続く見込みである。

図表 3：一般機械の輸出と機械受注の外需 図表 4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



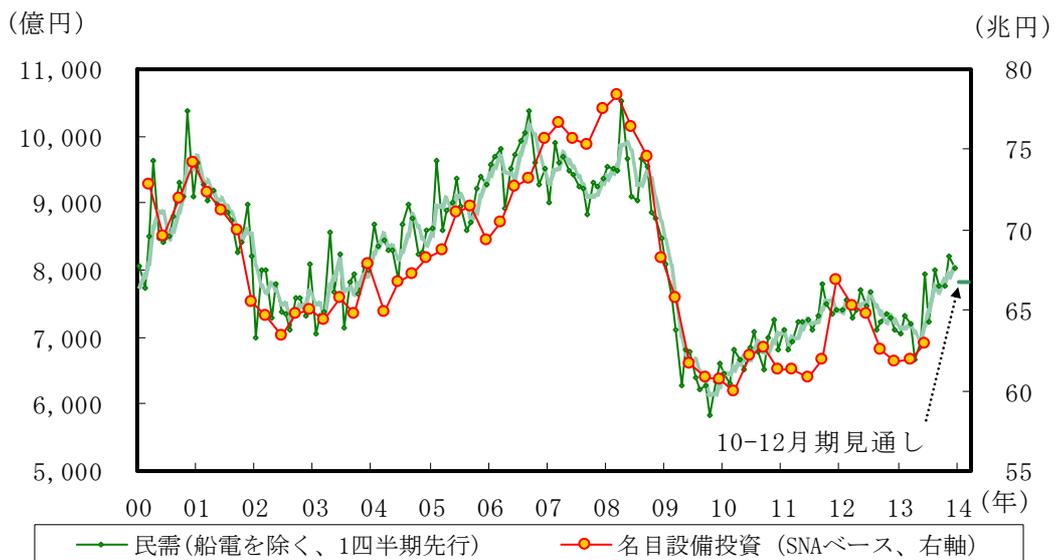
(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。
 (出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

内閣府見通しでは10-12月期は減少となったが、大和総研は増加を見込む

以上を総括すると、機械受注は、改善の動きが続いている。単月で見ると、非製造業の減少が全体を押し下げたが、製造業は堅調な推移が続いている。

内閣府公表の10-12月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比▲2.1%と3四半期ぶりの減少を見込んでいる。業種別に見ると、製造業の見通しは同+0.6%と3四半期連続の増加であるものの、非製造業の見通しが同▲3.5%となっており、非製造業の減少が全体を押し下げる見通しである。ただし、民需（船舶・電力を除く）の見通しは10月から12月までそれぞれ前月比▲1.2%となった場合でも達成可能だ。また、10月から12月までそれぞれ前月比▲0.1%で推移した場合でも、10-12月期は前期比で増加となり、達成のハードルは高くないだろう。このため、大和総研では、10-12月期の機械受注は3四半期連続の増加になるとみている。

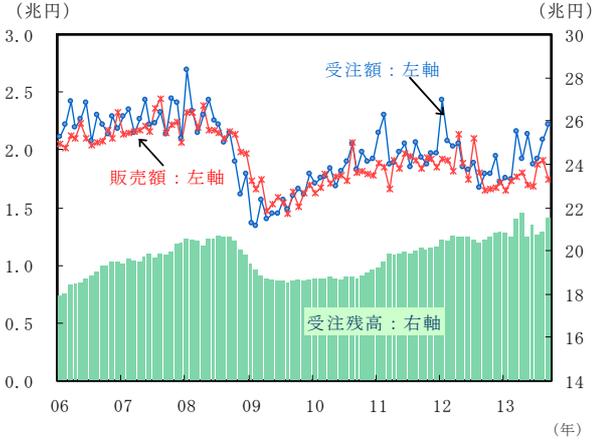
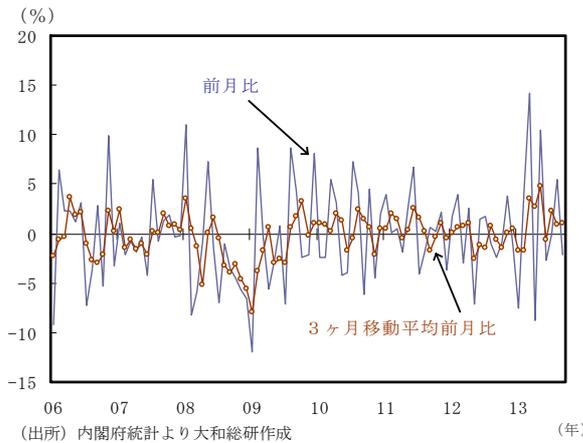
図表 5：機械受注の民需と名目設備投資（季節調整値）



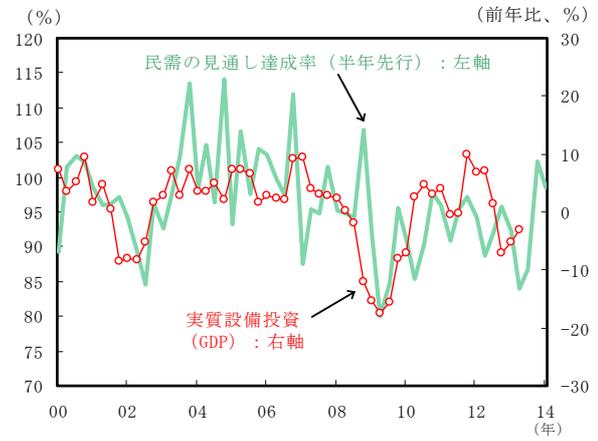
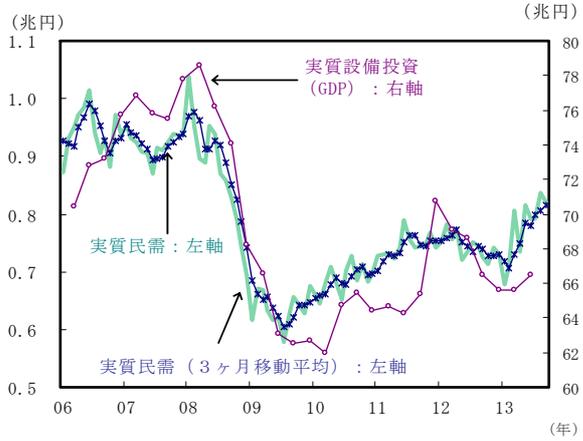
(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
 (出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

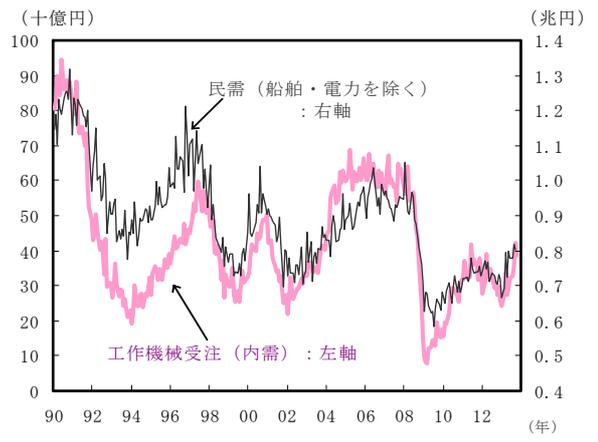
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比） 船舶を除く合計（季節調整値）



実質機械受注と実質設備投資（季節調整値） 民需（船舶・電力を除く）の達成率と実質設備投資



機械受注（季節調整値）と設備判断DI 機械受注と工作機械受注



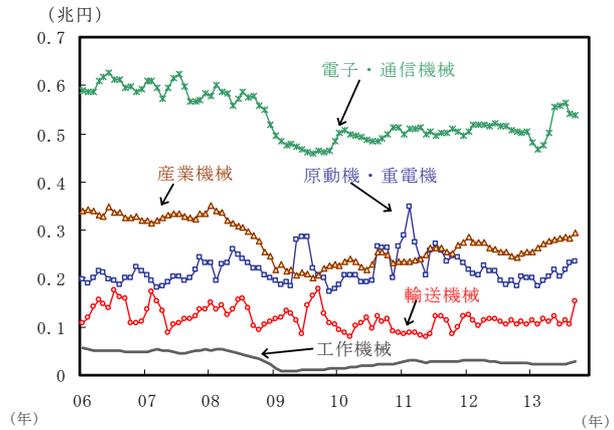
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

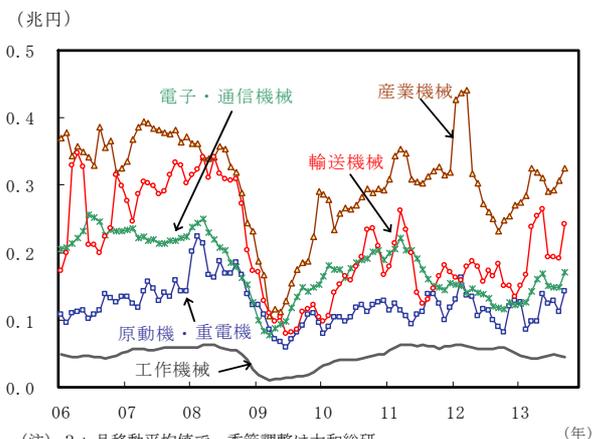


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

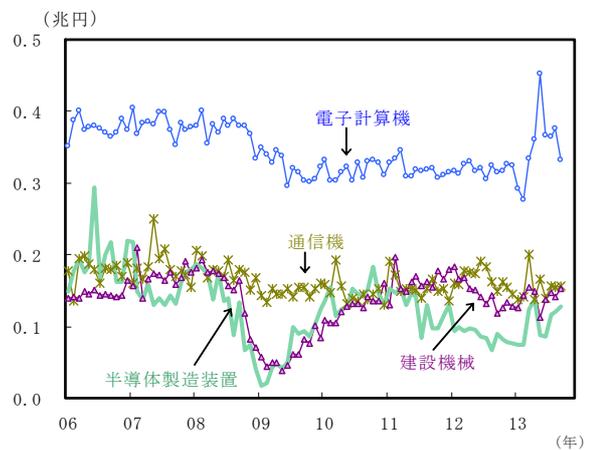


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）



(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成